

来年6月14日公開、主演映画「ディア・ファミリー」

余命10年と宣告された

「娘を救いたい」

大泉洋

人工臓を作ることと奮闘する父親熱演



俳優大泉洋(50)が、実話を元にした映画「ディア・ファミリー」(月川翔監督、2024年6月14日公開)で主演を務めることが22日、分かった。心臓病疾患で、余命10年と宣告された「娘を救いたい」という一心で奮闘する父親を演じる。家族の愛と絆が織りなす奇跡の物語を大泉が熱演で再現する。

「ディア・ファミリー」に出演する(上段左から)大泉洋、菅野美穂、(下段左から)川栄李奈、福本莉子、新井美羽

妻役に菅野美穂 大泉と初の夫婦役

宣政を献身的に支える妻・陽子を女優菅野美穂(46)が演じる。大泉とは初の夫婦役で「何度うまくいかなかったも、諦めずに、そのたびに工夫して再び挑戦する姿勢に、父の娘への強い思いが、諦めきれない愛情が浮かび上がって、胸をつかまれたような気持ちに

なりました」と語る。事前にオンラインで本人と会話し「陽子さんのお気持ちを預かって、役を全うできればという思いで現場に通っていました」と明かした。心臓に難病を抱える次女・佳美役に福本莉子(22)。実際の佳美さんは20歳

まで生きられないと医師に宣告されていたが「それでもいつも前向きで一家の太陽みたいな存在だった佳美さん。撮影に入る前にご家族にお会いさせていただき当時のお話を伺い、佳美さんがなぜこんなにも強く優しいのかが分かりました」と話した。佳美の姉で長女・奈美を川栄李奈(28)、奈美と佳美の妹で末っ子・寿美を新井美羽(17)が演じる。

本作は娘を救うため、すべてをなげうって、人工臓を作ろうと挑んだビルドアップ製品の町工場の経営者・筒井宣政さん(愛知県春日井市の東海メディカルプロダクツ前社長、劇中では坪井宣政)と家族をモデルにした22年に及ぶ物語。筒井さんは医療器具「IABPバルーンカテーテル」を開発し、世界で16万人もの心臓病患者を救うことになる。筒井さんと20年以上の親交があるノンフィクション作家・清武英利さんの取材など

実話を元に映画化!!

◆あらすじ 日本人にとって心臓疾患は致命的な病だった1970年代。人工臓やカテーテルは日本人の体に合うものがなく、医療事故が多発。そんな状況下で心臓病疾患の幼い娘・佳美が余命10年の宣告を受け、どここの医療機関に行っても治すことができないと言われたことから、小さな町工場を営む父・坪井宣政は「俺が人工臓を作ってやる」と立ち上がる。医療の知識も経験もない素人だが、宣政の「ただ娘の命を救いたい」という一心で、絶対に諦めない家族の挑戦が始まるが、佳美の命のタイムリミットが迫る。

「絶対に諦めないこの家族の強さが見た人を必ずや勇気づけてくれると信じて」

大泉といえば、数々の映画やドラマに出演し、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(22年)での源頼朝役の好演も記憶に新しい。加えて昨年まで3年連続でNHK紅白歌合戦の司会を務め、今年は歌手として初出場も決めるなどマルチな才能を発揮。豊富な経験に裏打ちされた確かな演技力で、どんな時でも諦めなかった父親の熱い思いを繊細に、大胆に表現する。月川監督は「君の臍臓をたべたい」(17年)、「君は月夜に光り輝く」(劇場版として、生きる)「いづれも19年」など、死生観にまつわる感動作を生み出してきた。2児の父親である月川監督も「何としてもこの実話の映画化は自分でもやり遂げたいと思いました」と語り、初タッグの大泉と感動物語を紡いでいく。

「医療の知識・経験なし」知識も経験もない状態で医療器具開発に臨む父親という難役に挑んだ大泉。筒井さんと対面し、話を聞いたという。自身もまな娘を持つ父親だけに、筒井さんの子を思う気持ちが痛いほど分かるようで「自分も子供の親として、引き受けられなくても苦しい撮影期間になるといっことは予想できましたが、娘の命を救いたいという一心で立ち上がり、絶対に諦めないこの家族の強さを見た人を必ずや勇気づけてくれると信じて、出演を決めさせていただきました」とコメント。

確かな演技力で表現

を元に脚本が完成。取材などはまとめられ、24年4月に文春文庫より「アトム」の心臓「ディア・ファミリー」22年間の記録」のタイトルで刊行される。